

第46回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会

大会レギュレーション (TD通達)

- 1 **大会運営** 本大会の運営は、(公社)日本ホッケー協会競技運営規定ならびに第46回全国スポーツ少年団ホッケー交流大会実施要項により運営します。
- 2 **競技規則** (公社)日本ホッケー協会 2023 年度 6 人制ホッケー競技規則、競技運営規程(レギュレーション含む)及び競技運営部通達によります。なお、2023 年度から小学生の試合に適用していたハイスティック禁止規制にあつては廃止していますが、実際のプレーでは、その場が危険かどうかという基準でのアンパイアによる判定となるため、ハイスティックがすべて許されているものではないことに留意してください。また、振りかぶって行うリバースヒットについては反則となります。また、SO戦においては、16 メートルのポイントからの実施並びに 6 秒の計測とし、ペナルティーコーナー時の守備側の戻る位置はセンターラインから向こう側とします。
- 3 **競技時間** 試合時間は、前半 10 分・後半 10 分とし、前後半の間に 4 分間の休憩をおきます。
熱中症対策として、前半、後半の 5 分経過時に 1 分間の給水タイムを取ることもあります。
- 4 **競技方法**
 - (1) 男子の部
 - ・予選リーグを行い、各グループ第 1 位、第 2 位による決勝トーナメントを行います。
 - ・ A、B、C グループ第 3 位、第 4 位及び D、E、F、G、H グループ 3 位によるフレンドリーリーグを行い、あ、いにあつては上位 2 チーム、うにあつては上位 1 チームによるフレンドリートーナメントを行います。
 - (2) 女子の部
 - ・予選リーグを行い、a、b グループは 3 位まで、c、d、e、f、g は上位 2 チームによる決勝トーナメントを行います。
 - ・ a、b グループ第 4 位及び c、d、e、f、g グループ 3 位によるフレンドリーリーグを行い、上位 2 チームによるフレンドリートーナメントを行います。
 - (3) 延長戦は行いません。
 - (4) 決勝トーナメントにおいて、規定の時間内に勝敗を決しないときは、「6」に定めるシュートアウト戦を行い、勝敗を決します。(SO 戦は試合終了後 5 分以内に実施します)
- 5 **リーグ方式での順位決定方法**
 - (1) リーグ戦終了時に獲得したポイント数が最も多いチームから順に上位とします。ポイント数は、勝者に 3 ポイント、引き分けた場合は両者に 1 ポイント、敗者に 0 ポイントをそれぞれ与えます。
 - (2) ポイント数が同じ場合は、リーグ終了後、「6」に定めるシュートアウト戦により順位を決定します。なお、同位チームが 3 チームまたは 4 チームの場合のシュートアウト戦は、トーナメント方式で実施し、順位を決定します。そのトーナメントの組み合わせは抽選とします。
- 6 **シュートアウト戦 (SO 戦)**
 - (1) 両チームの監督は、自チーム内よりレッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた出場登録済みの選手の中から 1 名の選手(シューター)と 1 名のゴールキーパーを指名します。
 - (2) 両チームの主将によりトスを行い、先攻・後攻を決めます。その後両チーム 1 名のシューターにより交互に攻防を 1 巡行い(計 2 本)、得点数の多いチームを勝者とします。
 - (3) (2) の方法によって勝敗を決しないときは、引き続きシュートアウト戦を行うこととし、この時は、最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き各チームは最初と同じ選手で行います。

7 試合の再開と追試合

- (1) 中断した試合の再開は、中断した時の得点で残り時間のみ試合を行います。
- (2) 中断した試合の再開において、試合の期日・競技場・審判員等は、これを変更する場合があります。

8 チームベンチ

チームベンチには、プログラムに記載された者のほか、同じ種別の団員および担当者2名まで入ることができます。学校関係者等がベンチに入りについては、事前にTDの許可を受けて下さい。

9 フィールドへの立ち入り

試合中、選手にケガ等が起こった場合は、担当者の中から1名と監督の最大2名がフィールド内に入り、手当てを行うことができます。(この際コーチングはできません)

10 確認事項

- (1) 選手はシャツ(ブラウス)裾を常にきちっと処理し、すね当てを必ず着用し、ストッキングをひざ下まであげて履いて下さい。(ひざをストッキングで隠してはいけません)
- (2) キャプテンは、キャプテンマークをつけて下さい。
- (3) ゴールキーパーは、装具を完全に着用し、アンダーパットもチームの責任で装着してください。
- (4) 服装、スティックなどの装具の点検は、次チームベンチにおいて試合開始10分前に各チーム1試合目のみ実施します。
- (5) スターティングリストは本大会では使用しません。スターティングメンバーは、試合前に、試合を担当する担当TO又はジャッジに口頭で報告してください。
- (6) チームベンチは、試合日程表の左側チームがテクニカルテーブルからコートを見て左のチームベンチを使用します。
- (7) ペナルティーコーナーの保護具は試合開始前にTOに確認して下さい。
- (8) 応援者は、競技場内には一切入れません。(監督から応援者に事前に説明して下さい)
- (9) 全試合とも「ポイントスパイク」の使用は認めません。
- (10) 選手が負傷により出血した場合、頭・顔・心臓付近にボールが当たった場合、審判員が負傷の状況を確認し、退場を命じられたときは直ちに退場してください。止血処理を傷の手当が完了するまでは、再出場はできません。(2分以上の安静が必要です。)
- (11) 「負傷・事故報告書」の提出を課せられたものは、医師による治療後、負傷事故報告書を提出し、TOまたはTDによる本人の健康確認のうえ、次試合の出場を認めます。負傷事故発生後、試合のないチームは、負傷事故報告書を大会事務局に郵送して下さい。
- (12) 試合開始時間に6名そろわない場合、または試合中に退場・怪我等により、1チームの人数が3名以下になったときは、その試合を没収試合とし、相手チームの不戦勝とします。
- (13) 乱暴なプレーや審判員に対する不服等、スポーツマンらしくない行為は戒めます。(監督・応援団についても同じです)
- (14) 全国スポーツ少年団ホッケー交流大会において、抗議制度はありません。
- (15) 競技場コートの広さは、長さ55m・幅30mです。
- (16) 今大会においては、熱中症対策として、活動時、帽子の着用を推奨します。選手において、つばの固い帽子を試合中に着用する場合は、帽子のつばを後ろ向けにして着用してください。
- (17) 2021年4月20日付「マウスピース(ガード)の着用に関する規程の変更」通知において、「試合中は常にマウスピースを着用しなければならない。ただし、ゴールキーパーは、着用を推奨する。」と定められましたが、スポーツ少年団、マスターズに限っては、この適用を免除し、「装着を強く推奨する。」と示されました。マウスピースは、外部からの顎と口まわり、歯への衝撃をやわらげる効果があるほか、脳しんとう予防にも効果があります。スポーツ少年団の適用除外は、成長期であり着用が困難な場合が多いと想定されることから「強く推奨」と緩和されたものですが、けが防止等に有効なものですので、マウスピースの装着について、積極的にご検討ください。なお、本大会での装着の有無についての確認はいたしません。
- (18) その他、本規程に定めのない事項、または熱中症が心配される異常気候や食中毒等不測の事態が発生した場合は、TDの指示に従って下さい。
なお、競技運営において上記の事態が心配される際には、TDはスポーツ少年団部会と協議し選手の健康・安全を最優先した措置を講じます。